



恋人に誘われ、彼の家を訪ねたフワワ。  
大好きな彼のため、オシヤレした彼女を玄関で出迎えたのは、  
彼ではなくその父親だった。

「息子は急用で出かけているが、すぐに戻る。中で待っていないさい」  
その言葉を信じて家上がったフワワは、  
勧められるままに差し出された飲み物を口にする。

しかし数分後、彼女の体に異変が起こる。  
急激に体が火照り、意識が混濁して  
立っていられなくなったのだ。  
足元のおぼつかないフワワに対し、父親は

「介抱してあげよう」

と下卑た笑みを浮かべ、強引に肩を抱き寄せる。  
抵抗できないほど朦朧とするフワワは、  
そのまま男の自室へと連れ込まれてしまい――。



やめ…っ  
何を飲ませたの…

フワワちゃん、  
君をずっと見ていた  
君は息子には  
もったいないよ

あー  
あー

おっ  
おっ



あー  
あー

おっ  
おっ

あー  
あー





さあ、本番は  
これからだよ  
あいつじゃ満足  
できなくしてあげよう

いいやあ...  
待って...っ



ん？あれ...？

あゝまだ処女  
だったのか！

責任取らないとなあ



うほ...っフワワちゃん  
の中、最っ高だよ...！

おじさんと結婚して♡

おじさんの子を産んで♡



フワワ…最近  
会ってくれないけど

お仕事お疲れ様!

今度の休みなんだけど、久  
しぶりに会えないかな?

フワワが好きそうなら  
カフェ見つけたから  
息抜きにどう?

ごめんね。

次の休みもちょっと無  
理そう

ずっと会えなくてごめ  
んなら大好きだよ。

俺なんか  
しちやっただかな…

具合悪いとか  
じゃないといいな…

オホオホ  
オホオホ

オホオホ

オホオホ  
オホオホ

オホオホ  
オホオホ

オホオホ  
オホオホ

オホオホ  
オホオホ  
オホオホ













